

# 青年期における「こども」から「おとな」への移行

浦上 昌則  
(南山大学文学部)

## 目的

青年期は、一般に「こども」から「おとな」への移行期にあたると考えられている。本研究では、この移行時に変わっていく側面、すなわち移行を探求する上で着目すべき点を明らかにすることを目的とする。なお着目すべき点としては、それが第三者からの判断の基準になるものであり、かつ自らが自分自身を判断する基準にもなるものを探索する。

## 項目収集と整理

「こども」や「おとな」を判断するときの指標をとらえる項目を作成した。津留や古市の尺度といった先行研究に加え、自立尺度、日本語版ACL、東大式エゴグラムから項目を選出しプールした。加えて、大学生(30名)、大学院生(36名)、社会人(18名)を対象に(不明3名を含む)、「おとな」と判断される人、「こども」と判断される人それぞれの特徴を、自由記述で回答することを求め項目化した。これらの項目から、類似性や妥当性を考慮しながら213項目を選出し、語尾等の統一を図った。

次に、この213項目の弁別力を検討するために、各項目が「こども」もしくは「おとな」の特徴を示しているか否かを問う質問紙を作成し、大学生8名、大学院生14名、社会人8名を対象として実施した。得られたデータを基に、評価が分かれるような項目を削除し、147項目を選出した。さらに、これらの項目について、KJ法による分類を試みた。心理学を専攻する大学院生を2人1組として、2組に分類を依頼した。その結果を参考に、類似性の高い項目や独自性の強い項目を排除するという操作を行い、100項目を選出した。以上の手続きにより、選出された項目は第三者からの判断の基準になっているものと考えられる。

この100項目を用いて、大学生319名に自分にあてはまる程度の回答を求めた。加えて、159名の回答者には、自分の中の「こども」の部分の割合を、また残りの160名には自分の中の「おとな」の部分の割合を0から100までの数値で回答するように求めた。

分析は、まず各項目が「こども」や「おとな」の部分の割合を反映しているか否かについて検討した。「こども」「おとな」それぞれで、0から100までを20間隔で5等分し、回答の少ない段階(「こども」の0-20、「おとな」の80-100)を除いた4段階を要因とする分散分析を行った。この結果で10%水準を超える段階差が認められ、かつ段階の進展と尺度得点が極端な2次の関連を示さない項目52項目を選出した。この選出手続きにより、選出された項目は自らが自分自身を判断する基準になっているものと考えられる。

## 視点の整理

「こども」から「おとな」への移行を見る視点を明らかにするために、先の52項目を対象に因子分析を行った。その結果、7因子を抽出する場合が最も妥当な解釈が可能であることを確認した。第1因子は、「臨機応変である」「物事をうまくまとめられる」などの項目が高い負荷を示したため、「社会的かしこさ」の因子と命名した。第2因子は、「世の中のしきたりに従っている」などが高い負荷を示したため「世俗迎合」の因子、第3因子は「理想と現実の境目がわかる」などに高い負荷が認められたため「冷静な判断」因子と命名する。また第4因子は「人の内面に気付くことができる」などが、第5因子には「意見の違う人とも協力し合える」などの項目が高い負荷を示した。そこで第4因子を「他者への配慮」、第5因子を「協調性」の因子と命名する。第6因子は、「社会に対する責任感をもっている」などが高く負荷したため、「責任感」の因子と命名した。最後に第7因子には、「自己中心的である」などの項目が高く負荷した。そこでこの因子を、「自己陶醉」と命名する。

この因子分析結果より、「こども」から「おとな」への移行を見る視点として7つを指摘することができよう。第1から第6因子までの内容を身に付け、第7因子を捨て去ることによって、第三者からも自分自身の評価としても「おとな」に近づいていると判断されるようになるものと考えられる。しかし、特に第1因子の中身は解釈が難しい。それは他の因子よりも、これに含まれる項目内容が多様であると感じられるからである。その多様性をもって「社会的かしこさ」と命名したのであるが、「社会的かしこさ」とは何かという問題は今後さらに検討していく必要があるだろう。

# 目的

青年期は，一般に「こども」から「おとな」への移行期にあたると考えられている。本研究では，この移行時に変わっていく側面，すなわち移行を研究俎上にのせる場合に着目すべき心理的側面を明らかにすることを目的とする。なおその着眼点については，それが第3者からの判断の基準になるものであり，かつ自らが自分自身を判断する基準にもなるものを探索する。

# 項目収集と整理

## 第1ステップ

津留や古市の尺度といった先行研究に加え、自立尺度、日本語版ACL、東大式エゴグラムから項目を選出しプールした。加えて、大学生、大学院生、社会人を対象に、「おとな」と判断される人、「こども」と判断される人それぞれの特徴を、自由記述で回答することを求め項目化した。これらの項目から、類似性や妥当性を考慮しながら213項目を選出し、語尾等の統一を図った。

## 第2ステップ

この213項目の弁別力を検討するために、各項目が「こども」もしくは「おとな」の特徴を示しているか否かを問う質問紙を作成し、大学生、大学院生、社会人を対象として実施した。得られたデータを基に、評価が分かれるような項目を削除し、147項目を選出した。

## 第3ステップ

147項目を、KJ法を用いて分類した。心理学を専攻する大学院生2人1組で、2組に分類を依頼した。その結果を参考に、類似性の高い項目や独自性の極端に強い項目を排除するという操作を行い、100項目を選出した。

以上の手続きを踏まえたことによって、選出された項目は第3者からの判断の基準になっているものと考えられる。

## 第4ステップ

この100項目を用いて、大学生319名に自分にあてはまる程度の回答を求めた。加えて、159名の回答者には、自分の中の「こども」の部分の割合を、また残りの160名には自分の中の「おとな」の部分の割合を0から100までの数値で回答するように求めた。

分析は、まず各項目が「こども」や「おとな」の部分の割合を反映しているか否かについて検討した。「こども」「おとな」それぞれで、0から100までを20間隔で5等分し、回答の少ない

段階(「こども」の0-20, 「おとな」の80-100)を除いた4段階を要因とする分散分析を行った。この結果で10%水準を超える段階差が認められ, かつ段階の進展と項目得点が極端な2次的関連を示さない52項目を選出した。

このような項目選出手続きにより, 選出された項目は, 自らが自分自身を判断する基準になっているものと考えられる。

# 視点の整理

「こども」から「おとな」への心理的移行を  
見る7つの視点(52項目の因子分析結果より)

「社会的かしこさ」 第1因子

「世俗迎合」 第2因子

「他者への配慮」 第3因子

「冷静な判断」 第4因子

「協調性」 第5因子

「責任感」 第6因子

「自己陶醉」 第7因子



因子分析（主成分分解，バリマックス回転）結果

	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	h <sup>2</sup>
臨機応変である	.684	-.019	.140	.181	.071	.235	-.089	.589
機転がきく	.644	.179	.097	.090	.150	.313	-.029	.586
物事をうまくまとめられる	.606	.192	.203	.064	.127	.277	-.134	.561
決断力がある	.543	-.034	.102	.084	.352	-.115	.110	.463
正確に状況把握ができる	.511	.245	.464	.236	.097	.008	-.074	.607
トラブルに冷静に対処できる	.495	.032	.039	.436	.078	.003	-.061	.447
社会的に広い視野を持っている	.477	.128	.166	.206	.257	.132	.006	.397
両親から情緒的に自立している	.449	.014	.086	.244	.245	-.072	.036	.335
普通であることや平均的であることを求める	-.424	.301	-.068	.215	.012	.125	-.140	.357
周りの人とうまく協調していける	.421	.032	.295	.131	.074	.372	-.065	.431
多面的なものの見方ができる	.416	-.005	.217	.404	.087	.293	.098	.487
親に対して過度に頼ってはいない	.364	-.099	.060	.332	.311	.057	-.148	.378
世の中のしきたりに従っている	-.022	.686	.063	.173	.007	.049	-.036	.508
世間体を気にする	-.101	.646	.142	-.070	.097	.081	.102	.479
社会的地位の上下を気にする	-.091	.622	.048	-.164	.147	.000	.232	.501
後先を考えて行動する	.093	.582	.281	.242	-.110	.059	-.206	.543
計画をたててから行動している	.228	.538	.145	.212	.007	-.179	-.077	.445
礼儀・作法・習慣を重んじている	.206	.506	.200	.100	.253	.114	.073	.431
常識がある	.323	.496	.234	-.005	.094	.177	-.304	.537
“むちゃ”はしない	-.236	.495	-.204	.284	-.031	.116	-.178	.469
時や場所をわきまえて行動している	.130	.490	.352	.168	-.011	.020	-.274	.485
正しい敬語を使っている	.362	.406	.097	-.088	.127	.206	-.100	.382
自分の健康管理ができる	.183	.322	.033	.294	.129	.090	-.165	.276
人の内面に気付くことができる	.142	.093	.651	.073	.218	.155	.132	.546
周りの人のことを考えて行動している	.049	.224	.587	.164	.161	.289	-.164	.561
場の雰囲気を読み取ることができる	.364	.204	.565	.164	-.059	.007	.076	.529
細かな点に目を配ることができる	.364	.236	.524	.083	.013	.125	-.131	.503
相手の立場をよく考えて行動している	.095	.181	.505	.265	.284	.325	-.163	.580
他人を思いやることができる	.137	.162	.497	.156	.177	.432	-.089	.542
理想と現実の境目がわかる	.068	.091	.167	.594	.155	.013	-.120	.432
現実的なものの考え方をしている	.023	.355	.085	.577	.079	-.127	.013	.490
物事を長い目で見ることができる	.114	.131	.114	.511	.033	.280	.028	.384
自分を客観的に見ることができる	.130	-.055	.390	.509	.162	-.013	.102	.468
喜びや怒り、悲しみなどの感情をコントロールすることができる	.228	.218	.153	.460	-.025	.253	-.096	.409
自分の良いところも悪いところもありのまま認めている	.178	-.039	-.087	.401	.399	.135	.110	.391
公平な判断ができる	.195	.088	.286	.395	.291	.072	-.155	.397
社会の中で自分の果たすべき役割をわかっている	.108	.114	.082	.113	.687	.102	.053	.529
社会に対するの責任感をもっている	.168	.422	.101	.100	.596	.121	-.188	.631
自分の人生を自分で切り開いている	.304	-.053	.251	.121	.509	-.124	.144	.469
包容力がある	.321	.105	.098	.151	.466	.309	-.123	.474
自分の言動に責任をもっている	.192	.248	.370	.233	.460	.017	-.223	.551
意見の違う人とも協力し合える	.152	-.024	.006	.160	.267	.650	.062	.546
嫌いな相手にも敵意や不快感を見せない	-.027	.048	.149	.047	-.065	.631	-.128	.447
自分とは違う意見も素直に受け止められる	.049	-.024	-.021	.370	.009	.484	.025	.376
素直である	.110	.150	.189	-.101	.348	.426	.072	.387
自分の性的な衝動をコントロールできる	.163	.126	.173	-.077	-.024	.322	-.053	.185
自己中心的である	.185	.087	-.266	.002	-.149	-.147	.684	.623
気まぐれである	.074	-.127	-.155	-.057	.052	.031	.617	.433
空想にふけることが多い	-.147	.083	.221	-.097	.192	-.012	.593	.476
世間知らずである	-.274	-.056	.079	.049	-.176	.071	.564	.442
規則や禁止事項に強く反発する	.255	-.181	-.004	.064	.137	-.202	.349	.283
落ち着きがある	.245	.330	-.023	.269	.094	.154	-.333	.385
寄与率	9.00	8.30	6.76	6.53	5.56	5.44	4.88	